

チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学 研究教育協力センター

Newsletter Vol. 10

2018 (平成30) 年3月30日



マヒドン大学医学部 シリラート病院との交流

マヒドン大学医学部シリラート病院と本学の教員が相互に訪問するなど活発な交流が行われました。
11月にはシリラート病院内で、本学のオフィスの開所式が行われました。

平成29年度は本学とマヒドン大学医学部シリラート病院との交流が、これまで以上に活発に行われた一年となりました。6月には田中理事を、11月には吉澤学長をそれぞれ団長とする本学ミッション団がマヒドン大学を訪問し、Dr. Banchong Mahaisavariya 新学長や Dr. Prasit Watanapa 医学部長、外科教



開所式終了後。本学学長、田中理事、シリラート病院 Prasit 医学部長(前列左から5人目)ほか。

員等と面会し、本学とマヒドン大学医学部シリラート病院とのジョイント・ディグリー・プログラムの開設を目指していくことで合意しました。

その足掛かりとして11月のマヒドン大学訪問時にはシリラート病院内に本学オフィス”TMDU-MU Partnership

Siriraj Office”が開所し、開所式には本学から吉澤学長、田中理事、三宅教授、秋田教授が出席しました。

12月にはシリラート病院医学部長の Dr. Prasit Watanapa を団長とする教員一行が本学を訪問し、本学の外科分野の教授陣と顔合わせを行い、それぞれの研究や提供できるプログラム等について情報共有、意見交換を行いました。(文責:学務企画課ジョイントディグリー係)



Prasit 医学部長及びシリラート病院教員、本学田中理事及び外科分野教授

JDAT (Japan Dental Alumni of Thailand) と国際歯学教育コース について意見交換

2017(平成29)年12月1日(土)に、バンコク市内にて現 JDAT リーダー Dr. Thosapol Piyapattamin (ナレスワン大学歯学部長) を中心にメンバー約10名と本学教員6名が国際歯学教育コースについて活発な意見交換をしました。

2017(平成29)年12月1日(土)に、Jannell Moross 准教授(統合国際機構)、金澤学助教(高齢者歯科学分野)、保坂啓一助教(う蝕制御学分野)、水谷幸嗣助教(歯周病学分野)、駒ヶ嶺友梨子助教(高齢者歯科学分野)、關奈央子助教(統合国際機構)がバンコクを訪問し、JDAT(Japan Dental Alumni of Thailand)と世界の歯科医療従事者を対象とした本学初の国際歯学教育コースについて意見交換をしました。

2017(平成29)年度はクリニカルスキルに焦点を合わせたショートコースを実施しましたが、来年2018(平成30)年度は基礎分野からの講義等を含めたベーシックサイエンス、クリニカルサイエンス、クリニカルテクニクの包括的なプログラムを提供する予定であることを説明し、その需要について協議したところ、国際歯学教育コースには高い需要があり、特に高齢者歯科学について学習したいという意見が多くありました。

また、臨床技術を学習できる実習、ソフトスキルや英語学習に関する需要も高いことがわかりました。

意見交換後、実際のコースの一部(講義)を展開したところ、高評価を得ることができました。(文責:歯学教育開発学分野 關奈央子)



意見交換に参加した JDAT メンバーと TMDU メンバー



国際歯学教育コースについて説明する駒ヶ嶺助教



保坂助教の講義を受ける参加者



水谷助教の講義(説明)の様子

チュラロンコーン大学歯学部との ジョイント・ディグリー・プログラム

2018年2月22日～23日に、チュラロンコーン大学歯学部教員が本学を訪問し、ジョイント・ディグリー・プログラムの実施状況の確認やFD研修などを実施しました。

2018年2月22日～23日に Dr. Suchit Poolthong 歯学部長ほか全7名のチュラロンコーン大学歯学部教員が本学を訪問しました。

2月22日には広島大学から加藤歯学部長、プリンス・オブ・ソンクラ大学から Dr. Chairat Charoemratrote 歯学部長を本学にお迎えし、第三者評価を実施しました。評価の結果、本プログラムがおおむね計画通りに実施され、適切に管理運営されていることが確認されました。

2月23日には本学とチュラロンコーン大学歯学部との共催でファカルティ・ディベロップメント・セミナーを開催し、Dr. Suchit Poolthong 歯学部長、本学咬合機能矯正学分野小野卓史教授が両国の卒後教育について講義を行いました。

そのほか、タイ人教員は本学滞在中に、現在本学で履修中の入学生の研究の進捗を確認し、論文指導を行ったり、研究施設や本学歯学部附属病院を見学しました。また、連絡協議会、コース管理委員会を実施し、両大学の関係者が一同に会し本プログラムの開設初年度の一年間を総括し、今後の運営について情報共有、意見交換を行いました。(文責:学務企画課ジョイントディグリー係)



FD研修終了後、JDP第一期生3名(前列)とともに



前列左から Dr. Paiboon(チュラロンコーン大学:CU), Dr. Chairat(プリンスオブソンクラーク大学歯学部長)、本学吉澤学長、Dr. Suchit CU 歯学部長、Dr. Korapin(CU), Dr. Prim(CU)。後列左から本学森山教授、Dr. Chidsanu(CU)、Dr. Pinturon(CU)、本学小野教授 CU

医学科学生のチュラロンコーン大学・マヒドン大学への派遣

2017(平成29)年度、4名の医学科学生がタイへ派遣されました。4年生から2名がプロジェクト Semesterでの研修実習に、6年生からも2名が臨床実習に参加し、海外ならではの学びや発見がありました。

2017年5月29日～11月10日の約5ヶ月半、4年生2名(水越康平、高嶋吉朗)がチュラロンコーン大学で研修を、4月～5月の2ヶ月間、6年生2名(尾本恵里菜、三谷怜)がマヒドン大学で実習を行いました。

4年生の2名はそれぞれ研究室に所属し、微生物や寄生虫について研究しました。また、パーキンソン病

患者のデイケア見学へ行き、タイの高齢者医療の実態について話を聞く等、研究以外にも積極的に活動しました。6年生の2名は病院の複数の科で臨床実習を行い、タイならではの学びや日本との違いから考えさせられることなどありました。感染症科には Microbiology round という時間があり病原菌の培養の過程を学ぶことができました。日本ではその経緯を学ぶ機会ほとんどないため、非常に貴重な経験となりました。また、日本の実習では見ることのない症例も多々あったそうです。

熱心に勉強する現地学生から刺激を受けた、文化の違いから日本とタイの文化について多角的に考えられた、といった声があり、学問に留まらず多くの学びの機会を得ることができました。(文責:臨床解剖学分野 秋田恵一)



マヒドン大学シリラート病院感染症科の先生方と



パーキンソン病患者デイケア見学の様子



チュラロンコーン大学寄生虫学研究室での様子



勉強は、大学内の 24 時間開いているカフェで

歯学科学生の シーナカリンウィロート大学への派遣

2017(平成29)年の夏季休暇を利用して、歯学科学生9名がタイのシーナカリンウィロート大学での
歯科短期プログラムに参加しました。

歯学部歯学科3年生(河崎万鈴、菊田美穂、菊地仁香、島田怜実、田中五月、林 良樹、藤原正樹、別府 葵、横山達大)の9名は、2017年8月25日～9月2日に、タイの首都バンコクにあるシーナカリンウィロート大学歯学部において、歯科研修プログラムに参加しました。歯学部長の Narongsak Laosrisin 先生は、本学歯学部で最初に歯学博士の学位を取得したタイ人留学生です。研修では、学生交流担当の



Narongsak Laosrisin 歯学部長との記念写真

Nathawut Kaewsutha 先生による「タイの歯学教育システムや公衆衛生に関する特別講義」を受講したり、英語クラスに参加してタイ学生に日本の学生生活についてプレゼンテーションしたり、Oral Biology の授業に参加してタイ学生と一緒に実験を行いました。また、各分野の研究室や先端医療施設であるアソートモントリ病院を見学する機会もあり、タイの歯科事情を日本と比較しながら学ぶことができました。

本研修プログラムは、2018年度も夏に実施される予定です。(文責:健康推進歯学分野 川口陽子)



タイ学生と一緒に英語クラスに参加



シーナカリンウィロート大学の説明をする Nathawut Kaewsutha 先生

保健衛生学科学生の チュラロンコーン大学への派遣

2017年度、保健衛生学科学生3名が海外研修のためタイへ派遣されました。チュラロンコーン大学内外の施設を見学したり、研究室に所属し研究に参加したりと充実した研修とすることができました。

2017年8月9日から8月19日の期間、本学保健衛生学科から学生3名(岩嵯利菜、呉詩星、石澤未来)がタイ王国バンコクにあるチュラロンコン大学にて研修を行いました。研修の前半は施設見学などを中心に行いました。バンコクにあるタイ赤十字の National Blood Centre では献血と輸血製剤に関する活動を行っています。大規模な施設での献血の様子から、日本との相違点など多くを学ぶことができました。King Chulalongkorn Memorial Hospital の Central Laboratory ではデジタル化が進んでいる病院検査部の様子を、バンコクから離れたサラブリー県にある農村部の Community medicine ではプライマリーヘルスケアや訪問診療の様子を見学しました。

後半の期間では各学生が研究室に配属され、研究の体験や見学をしました。その経験をとおり、日本でさらに学んでいきたい分野を見つけた学生もいます。また、日本文化を紹介したり一緒に日本舞踊を踊ったりと、現地の学生との交流も充実していました。(文責:分子病態検査学分野 沢辺元司)



National Blood Centre



現地の学生と東京音頭を踊る様子

口腔保健学科学生の マヒドン大学への派遣

2017(平成29)年9月17日～25日、口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の3年生5名(赤塚彩乃、宮島沙紀、福本渚、渡辺紗衣、渡邊梨奈)がタイのマヒドン大学での短期海外研修プログラムに参加しました。

8日間のプログラムの内容は、マヒドン大学歯学部の Pornpoj 先生を中心に相談を重ねて作成しました。マヒドン大学の教養部で授業の聴講、歯学部附属病院、Golden Jubilee Dental Hospital、コミュニティーヘルスセ

ンター、幼稚園、歯学科学生による小学校での健康教育・予防処置実習の見学を行いました。

また、文化交流としてマヒドン大学歯学部学生によるタイ伝統楽器の演奏、本学学生は学生生活や歯科衛生士についてのプレゼンテーションを行ない、折り紙等を紹介しました。参加した学生は実際に訪問しなければ分からなかった、タイの保健医療の現状や異文化について多くのことを学びました。(文責:口腔保健学科 安田昌代)



文化交流会で本学学生が折り紙を紹介している様子



コミュニティーヘルスケアセンターの方々と



マヒドン大学副学長 Pompoj 先生と



マヒドン大学歯学部附属病院での実習



マヒドン大学の学生と本学の学生との交流

チュラロンコーン大学リサーチデイへの 歯学科学生の派遣

2018年(平成30)年2月12日から19日までの1週間に渡り、歯学部歯学科5年生がチュラロンコーン大学歯学部で研修を行い、14日に開催されたリサーチデイに参加しました。

チュラロンコン大学歯学部のリサーチデイは、年1回開催され今回で既に第30回となります。本学歯学部歯学科の学生は、毎年このリサーチデイに参加し、4年次に実施された研究実習の成果を発表しております。今年度のリサーチデイには、本学から歯学部歯学科5名と教員2名が参加し、倉林 亨教授(口腔放射線医学分野)が口腔放射線診断に関する特別講演を行いました。研究発表には口演16題とポスター32題がエントリーし、口演発表では、両大学の基礎系と臨床系の教員による質疑と審査が行われ、ポスター発表においても英語でのプレゼンと両大学の教員による質疑が行われました。本学から参加した学生5名全員が口演で発表を行い、置地竜一君が Oral biology 部門の1位を獲得しました。

歯学部での研修では、チュラロンコン大学歯学部附属病院の口腔外科外来、審美・インプラント外来、高齢者歯科外来、シミュレーション実習室などの病院施設と小学校への訪問歯科診療の見学を行い、さらには学外の障害児童施設でのボランティア活動に参加するなど大変貴重な経験をすることが出来たように思います。今後、このような機会を通じて、チュラロンコン大学歯学部と本学歯学部の学生交流が発展することを願います。(文責:部分床義歯補綴学分野 笛木賢治)



参加した歯学科5年生
(左から、上條陽輝、前田智寿古、置地竜一、大村星太、横瀬真子)



シミュレーションシステムでの研修

【発行日】 2018 (平成 30) 年 3 月 30 日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

